

登録コード	L1632100	開講年度	2026				
担当教員	岡本 卓也			副担当			
授業科目	社会心理学基幹演習						
英文授業名	Social Psychology: Basic Seminar						
授業タイトル	社会心理学基幹演習						
単位数	2	対象学生		講義期間	前期	曜日・時限	木曜・2時限
講義室	人文501演習室		遠隔授業科目		読替科目		
信大コンピテンシー	非該当						
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素			【授業の達成目標】			
	2026Lカリ, 2025Lカリ, 2024Lカリ						
	【2023年度以降加わらぬ対象】人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力が身につけている。 【思索力・受容力・批判力】			身の回りのありふれた事柄や出来事について、心理学の研究知見に基づいて、科学的で独自の視点から考えることができるようになる。これにより、人文学部人文学科の学士（文学）の称号にふさわしい基礎学力と専門的学力(思索力・受容力・批判力)を身につけることができるようになる。			
	【2023年度以降加わらぬ対象】専門的学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力が身につけている。 【開拓力・企画発想能力】			心理学の研究知見に対する知識を獲得し、自分自身の興味と関連付けて考えられるようになる。また、心理学の研究知見に基づいて、論文を読解し、他者に正しく伝えることができるようになる。これにより、専門的学力を基盤とし、持続可能な社会を実現するための課題に取り組む力(開拓力・企画発想力)を身につけることができるようになる。			
授業で学べる「テーマ」	その他						
全学横断特別教育プログラム							
授業の概要	興味のある研究論文を各自で選び、それをレジユメの形にまとめ、発表し、興味深い点や問題点について全員で討論を行う。 初回の発表は日本語の論文を選択してもよいが、以降は基本的に英語論文を読み、発表する。						
授業計画	第1回：ガイダンス（授業の進め方と発表の割り当て） 第2回：発表と討論（1）社会心理学とは 第3回：発表と討論（2）社会的態度 第4回：発表と討論（3）対人関係 第5回：発表と討論（4）コミュニケーション 第6回：発表と討論（5）対人魅力 第7回：発表と討論（6）社会的影響 第8回：発表と討論（7）集団過程 第9回：発表と討論（8）集団内行動 第10回：発表と討論（9）集団間行動 第11回：発表と討論（10）ステレオタイプ、偏見 第12回：発表と討論（11）文化の影響 第13回：発表と討論（12）集合行動 第14回：発表と討論（13）国際行動 第15回：総評とまとめ、授業アンケート 定期試験なし 尚、各トピックについては受講生の関心や社会状況に合わせて変更する場合がある。						
成績評価の方法	発表の質（70％）と議論への積極的参加（30％）によって、社会心理学的研究についての理解度を評価する。						
成績評価の基準	・研究論文の問題を正確に理解している ・研究論文の方法を正確に理解している ・研究論文の結果を正確に理解している ・研究論文の考察を正確に理解している ・研究論文の論旨を正確に理解している ・研究論文の良し悪しについて評価し、議論できている ・適切な発表資料を作成している 以上の7項目すべてを満たし、かつ討論に積極的に参加していれば、「卓越している」、6項目を満たし、かつ討論に積極的に参加していれば、「かなり上にある」、4,5項目であり、かつ討論にやや積極的に参加していれば「やや上にある」、3項目であり、討論に参加していれば「その水準にある」と評価する。						
事前事後学習の内容	自身が興味のあるテーマを扱っている論文を見つけられるように論文検索を行う。また、他の受講生が発表する論文も、予め読み、活発な議論ができるように準備しておく。						
履修上の注意	社会心理学領域で卒業論文を書く2年生は必ず履修すること。社会心理学領域の3、4年生の履修も歓迎する。ただし、履修希望者多数の場合、2年生以外は抽選とする。						
質問、相談への対応	火曜の昼休みをオフィスアワーとするが、それ以外にもメールで連絡をしてもらえれば、個別に対応する。連絡先については、初回の授業中に伝える。						
教科書	各自が選んだ論文と、それに基づいて作成したレジユメが資料となるので、特定の教科書は指定しない。						

参考書	授業中に適宜紹介する。
-----	-------------